

兵庫県立 考古博物館 NEWS Vol.11



Hyogo Prefectural
Museum of
Archaeology



2013 Spring-Summer

風土記 1300 年 記念

播磨
磨
風土記
国

神
人
山
海



小野市勝手野 6 号墳出土装飾付須恵器
【県指定文化財】

平成25年春夏号

- 特別展「播磨国風土記—神・人・山・海—」……………2
- ◆企画展「はかせからの挑戦状 こうこはく動物園」……………4
- ◆学芸員が選ぶ、私のイチオシ館藏品「青銅器を鑄造した鋳型」……………4
- ◆ふるさと発掘展「邪馬台国時代の摂津と播磨」……………5
- ◆シンポジウム「卑弥呼がいた時代」……………6
- ◆博物館を支えるボランティア活動……………7

特別展

風土記1300年記念

「播磨国風土記 一神・人・山・海一」

平成25年4月20日(土)～6月23日(日)

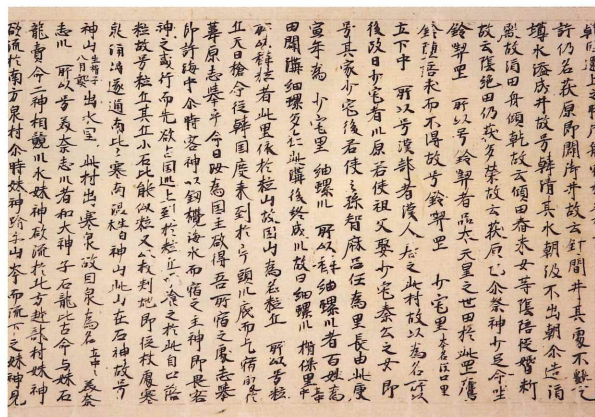
今から1300年前、和銅六(713)年の官命により風土記の編纂が始まります。

産物や土地の肥沃度、地名の由来、故事伝承などの報告を求めた官命は、律令制度を整備した朝廷が、中国に倣い地誌の編纂を命じたものです。しかし、その原本はすでになく、伝本も出雲、播磨、常陸、肥前、豊後の五カ国分が残るにすぎません。

当館ではその一つである『播磨国風土記』の編纂1300年を記念して4月20日から特別展を開催します。神々や天皇、渡来人などの伝承を考古資料や文献史料を駆使してたどりながら、みなさんを『播磨国風土記』の世界へご案内します。

I 誕生 播磨国風土記

『播磨国風土記』は「郡・里」の表記が使われていることから霊亀元(715)年あるいは養老元(717)年までという早い時期に成立したと考えられています。伝本は平安時代末期の写本と考えられる三条西家本(天理大学附属天理図書館所蔵 国宝)が唯一のものです。



播磨国風土記(国宝 天理大学附属天理図書館所蔵)

展示は姫路文学館蔵の複製

揖保郡萩原里条 ～揖保里条

1行目に「針間井」、5行目に「品太天皇」、13行目に「天日槍命從韓國度来」の文字がみえる

II 天皇と国造

『播磨国風土記』に最も登場する人物は、品太天皇(応神天皇)で、9郡中5郡に48回と群を抜きます。他に、仁徳、景行など多くの天皇の巡行や国見にまつわる伝承は、播磨地域と中央(ヤマト王権)との結びつきの強さを物語るものでしょう。

これら天皇の陵墓に比定されている巨大な前方後円墳(大王墓)が相次いで築造された4世紀末～5世紀には、明石郡の五色塚古墳(神戸市)、飾磨郡の壇山古墳(姫路市)、賀茂郡の玉丘古墳(加西市)と播磨地域にも大型の前方後円墳が出現します。これらは、大和や河内の大王墓と相似の墳形をもち、被葬者と大王との関わりを類推させてくれます。

発掘調査などで副葬品が明らかになった古墳はわずかですが、断片的な資料ながらその権威の大きさがしのべられます。

伝天理市渋谷向山古墳(景行天皇陵)出土石枕
(重要文化財 関西大学博物館蔵)

III 伊和大神と天日槍命

播磨の古代人が信奉した神は伊和大神です。宍粟郡や揖保郡など西播磨地域には国占め、国見など地域の支配者としての伝承が記されています。弥生時代以降、隣接する畿内とも吉備とも異なる文化を育んだ当地域独自の祭神として伊和大神が存在したのでしょう。

この伊和大神と再三にわたって争いを繰り返すのが韓国からの渡来神である天日槍命です。

『播磨国風土記』の特徴の一つとして渡来人に関する伝承の多さがあげられます。古墳時代の頃の朝鮮半島では、高句麗、百濟、新羅などの国々が激しい争いを繰り返していました。緊迫した半島情勢に加え、倭王権も基盤を強固にするため優れた先進技術を積極的に導入する必要がありました。天日槍命などの渡来神・渡来人伝承は、新しい技術や風習を携え、はるばる海を渡った彼らのことを伝えたものでしょう。

渡来人伝承に関する考古資料は東播磨地域にも広く認められますが、西播磨地域にも色濃く残っています。宮山古墳(姫路市)に副葬された煌びやかな大刀や金製耳飾などは被葬者が渡来系の有力者であったことを示唆しています。また、同じく市川沿いにある市之郷遺跡(姫路市)の竪穴住居跡から出土した韓式土器は、渡来人が倭人の村で共に暮らしていたことを物語っています。



姫路市 宮山古墳出土装飾大刀(重要文化財 姫路市教育委員会蔵)

Ⅳ 山直、石作連、舟木連

播磨地域の豊かな資源は、『播磨国風土記』が描いた時代に須恵器生産、製鉄、竜山石加工、造船などの古代産業を生み出しました。

奈良時代に「調」として都に納めるようになるまで特産化した須恵器生産や、古くから「千草鉄」として名を馳せたたたら製鉄には、山林管理が不可欠です。しばしば登場する山直、山部などは、山林管理を職能とする一族と考えられます。投松1号窯(加古川市)から出土した「山直川継」と刻まれた須恵器は山直氏と須恵器生産の関わりを物語るものかもしれません。

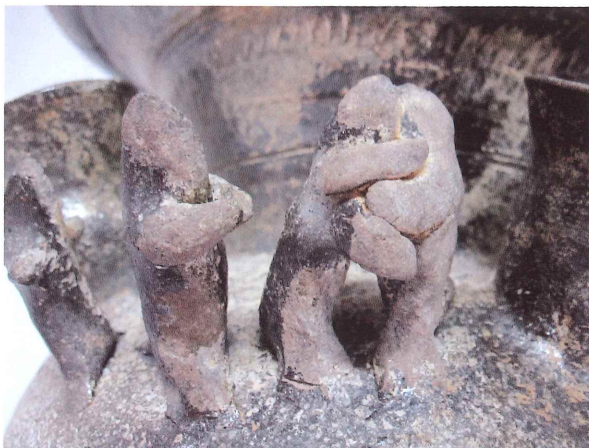
高砂市周辺に産する竜山石の利用は古墳時代の石棺製作に始まります。神功皇后と共に讃岐より印南の地にやって来た石作連大来(いしつくりのむらじおおく)の伝承は竜山石製石棺材



大阪市 高廻り2号墳出土船形埴輪(重要文化財 文化庁蔵)
(公財) 大阪市博物館協会大阪文化財研究所 写真提供

の開拓譚として、考古学的な事実とも符合します。

この他にも造船、井戸、鹿、野見宿禰(のみのすくね)など数多くの興味深いテーマがあり、関連する考古資料を紹介します。



たつの市 西宮山古墳出土装飾付須恵器(京都国立博物館蔵)

『播磨国風土記』は1300年前の人々が私達に遺してくれた111,738文字のタイムカプセルであり、虚実が絡み合って詰め込まれた推理小説のようです。

特別展をご覧頂き、その謎解きを楽しみながら、自分なりの答えを見つけてみてください。

(学芸課 藤田 淳)

《展覧会関連情報》

【講演会】

- 会場／当館講堂
時間／13:30~15:00(13:00より入場券配布・開場)
定員／120名
参加費／無料
- 5月11日(土) 「伊和大神と天日槍」
上田正昭氏(京都大学名誉教授)
 - 4月20日(土) 「播磨国風土記のひみつ」
是川 長氏(郷土史研究家)
 - 4月27日(土) 「播磨国風土記の世界—神話と伝承—」
坂江 渉氏
(神戸大学大学院人文科学研究科地域連携センター研究員)
 - 5月25日(土) 「考古学からみた播磨の渡来人」
亀田修一氏(岡山理科大学教授)
 - 6月 1日(土) 「播磨国風土記とハリマの国造」
今津勝紀氏(岡山大学大学院准教授)
 - 6月15日(土) 「播磨国風土記からみた揖保川流域の考古学」
岸本道昭氏(たつの市教育委員会)
 - 6月23日(日) 「『常陸国風土記』の魅力—伝承と歴史的景観—」
千葉隆司氏(かすみがうら市立郷土博物館)

○イベント

【紙芝居】

「播磨国風土記おもしろ話 ~天日槍物語ほか~」
日時／会期中の毎土曜・日曜・祝日 13:00~13:30

【考古博であそぼう】

「体感! 播磨国風土記の世界」
日時／5月3日(金・祝)~5日(日) 12:30~15:30
※一部観覧券必要

【演劇】

「アユを食べないミカドの話」
県立東播磨高等学校 演劇部
日時／5月12日(日) 13:00開演
場所／当館講堂

【展示解説】

会期中の毎日曜日。13:30~14:00

企画展予告

はかせからの挑戦状 こうこはく動物園

平成25年7月20日(土)～9月1日(日)

人は、古代から動物を食べ、利用し、動物とともに生きてきました。遺跡からは様々な動物の骨が出土します。それを丹念にみていくと当時のヒトがどんな動物を利用していたのかがわかります。

また、これらの動物を利用するための道具(狩猟具・漁労具・馬具など)も発達しました。

さらに、古代の人は身のまわりの動物に特別な思いをもって、土器や埴輪などにその姿をかたどってきました。土器に描かれた絵からは豊かな収穫の願いを、古墳に並べられた馬や鳥の形をした埴輪からは古代の物語が読み取れるかもしれません。

今年の夏休みは企画展「こうこはく動物園」で動物を観察して、古代の人々の思いにふれてみましょう。

(学芸課 池田征弘)



馬をかたどった焼き物(土馬:神戸市芝崎遺跡)

会場／当館 特別展示室
休館日／月曜日
時間／9:30～18:00

学芸員が選ぶ、私のイチオシ館蔵品

青銅器を鑄造した鋳型

—神戸市西区玉津田中遺跡—

弥生時代後期(約1,900年前)の竪穴住居跡で見つかった、土管を半分に割ったような形の焼き物です。長さは15cmほどで、外側は強い熱を受けて変色しており、内側には小さな孔がたくさんあります。同じ形のものがもう一つ見つかっており、二つを筒型に組み合わせて使っていたようです。

この不思議な焼き物は青銅器を鑄造するのに使われた鋳型です。内側の孔は製品の細かな形を表現するための真土(まね)という土を付けやすくするための工夫です。真土が残っていないので何を作ったものなのかはわかりませんが、大きさから考えて、鏃など小型の青銅器鑄造に使われたようです。

この鋳型が出土した竪穴住居跡やその周辺からは、金属を溶かすのに使った土器や轆(ふいご)の送風管などの道具と、素材となる小型の青

銅鏡などが出土しており、青銅器鑄造工房があったことが明らかになりました。

このような一見何かわからないような地味な資料にも、弥生時代の鑄造技術の謎をとく重要なカギが隠されているのです。

(埋蔵文化財課 多賀茂治)



外側

内側

ふるさと発掘展

「邪馬台国時代の摂津と播磨」

平成25年7月6日(土)～9月1日(日)

当館では県内の市町や博物館、埋蔵文化財センター等と連携して、各地域の歴史文化遺産を素材とした「ふるさと発掘展」を開催しています。

平成25年度は「邪馬台国時代の摂津と播磨」と題して、川西市とともに展覧会を開催します。

邪馬台国があったとされる2世紀から3世紀は、弥生時代から古墳時代への大きな変革期にあたります。そしてこの時代の摂津と播磨両地域の遺跡でも、様々な変化を見ることができます。

摂津の猪名川流域では、環濠を巡らせクニの中核をなしていた加茂遺跡(川西市)の大集落が規模を縮小し、小さな集落が分散するようになります。巨大な銅鐸を用いたマツリも終焉を迎えます。

その後、少し時をおいて長尾山古墳(宝塚市)などの前方後円墳や三角縁神獣鏡をもつ古墳が築かれます。また、^{あくらたかつか}安倉高塚古墳(宝塚市)からは、中国の呉の年号である赤烏七(244)年銘が刻まれた鏡が出土しました。

六甲山南麓では、三角縁神獣鏡などの多くの銅鏡が出土した^{にしもとめづか}西求女塚古墳(神戸市)をはじめとする前方後円墳や前方後方墳が早い段階から点々と築かれていきます。



宝塚市 安倉高塚古墳出土 赤烏七年銘平縁神獣鏡



姫路市 丁・瓢塚古墳

一方播磨では、西条52号墓(加古川市)などのように墳墓に鏡を副葬する風習を畿内周辺ではいち早く取り入れました。三角縁神獣鏡と埴輪の先祖である特殊器台形埴輪や特殊壺形埴輪と一緒に持つ墓は、今のところ権現山51号墳(たつの市)に限られています。そして姫路市の^{よろ ひさごづか}丁・瓢塚古墳周辺の集落遺跡からは、他地域の土器が少なからず出土しており、奈良県の纏向遺跡の様相に似ています。

初期ヤマト王権の成立に関わりが深いとされる摂津と播磨の両地域を抱える兵庫県は、邪馬台国の候補地とされる九州と畿内の間にあって、この時代の実像を解き明かす重要な位置を占めます。

両地域で見られる遺跡の大きな変化や、初期ヤマト王権との関わりの濃淡や緩急の差を通じて両地域のこの時代に果たした役割を探ります。

(学芸課 別府洋二)

《展覧会情報》

会場／川西市文化財資料館
川西市南花屋敷2丁目13-10
TEL.072-757-8624

休館日／月曜日(祝日の場合は翌日)

時間／9:30～17:00

期間中に講演会や体験イベントを予定しています。

シンポジウム「卑弥呼がいた時代」

兵庫県立考古博物館では、平成24年に開館5周年、そして史跡大中遺跡発見50周年という二つの節目を迎えました。これを記念して10月6日から開催される記念特別展「卑弥呼がいた時代」に先立ち、9月30日(日)に同名のシンポジウムを行いました。

シンポジウム会場は、神戸市ハーバーランドに聳える、706席の客席をもつ神戸新聞松方ホールを使用しました。当館石野博信館長をコーディネーターとして、次の4名の講師をお招きいたしました。まず、広く東アジア考古学に長ける西谷正先生(九州歴史資料館館長、九州大学名誉教授)、弥生時代研究領域の先頭にいる森岡秀人先生(日本考古学協会理事、古墳出現期土器研究会会長)、銅鐸研究の権威である難波洋三先生(奈良文化財研究所企画調整部長)そして銅鏡から政治史をひもとく福永伸哉先生(大阪大学大学院文学研究科教授)という豪華な顔ぶれです。



講師の知名度や会場のアクセスの良さを考慮すれば、参加希望者は多数になることが見込まれ、応募は往復はがきによる抽選とさせていただきました。予測は的中し、700名の定員に東は東京都、西は福岡市から1,000名を超す応募をいただき、主催者としてはうれしい悲鳴を上げることになりました。

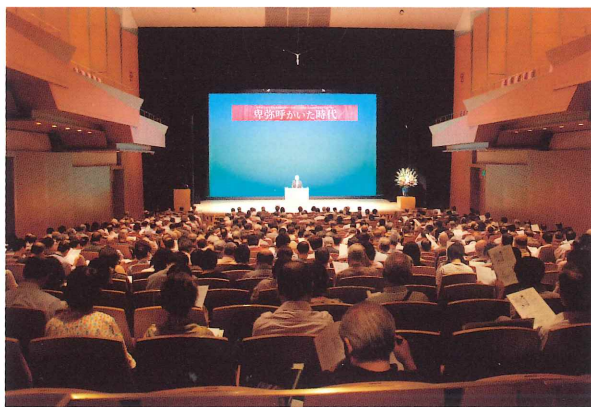
さて当日は、会場が満席となることを想定して万全の準備で望みましたが、折悪く台風17号が近畿地方に接近しており、風雨の激しい朝を迎えました。受け付け開始前には暴風・波浪警報が発令され、さらに公共交通機関も運行中止の措置が採られたため、参加者は500名にとどまりましたが、1階席はほぼ満席となり、会場内は熱気すら感じさせる幕開けとなりました。

シンポジウムは、石野館長による記念講演「女王・卑弥呼の王宮」で開演いたしました。引き続き、西谷先



生の「魏志倭人伝の世界」、森岡先生の「卑弥呼と邪馬台国・倭国」、難波先生の「銅鐸を使う国々」、そして福永先生の「銅鏡から見た邪馬台国連合」計4本の基調報告が行われました。

休憩を挟みシンポジウムが始まり、石野館長の快調なコーディネートによってパネラーの発言も頻度を増し、終了予定を15分ほど過ぎるまで最新の考古学研究最前線の成果を披瀝していただくことができました。



講演の最中、外は風速20mを超える暴風雨に見舞われていましたが、閉演後会場を後にする頃には雨脚も弱まったようです。スタッフが後片付けを終えて外に出た時には台風一過、神戸港の沖合には鮮やかな二重の虹が架かっていて、私たちの疲れを癒やしてくれました。有意義な一日であったと、実感できた瞬間でした。

(学芸課 種定淳介)

博物館を支えるボランティア活動

当館は、「地域文化への理解を深め、新たな『ひょうご文化』の創造に寄与すること」を目指して、平成19年10月に産声を上げ、現在に至ります。

開館前から、博物館活動支援のボランティアの養成を行い、現在130名の方がボランティア登録をされ、主に古代体験の指導や展示解説、イベントスタッフ等の役割を担っていただいています。



土器づくりのてほどき

◆1日も休まない 古代体験◆

「きれいにまが玉ができたよ!」「火おこし、おもしろかった!」

今日も体験学習室1からは、来館者の方々の楽しそうな声が聞こえます。

体験学習室1とは、来館された方々が「まが玉」や「石包丁」「組紐」を作ったり、「火おこし」等の古代体験ができるところで、開館以来5年間、毎日開いています。

年間1万人以上の方々がこの部屋で古代体験をされ、ボランティアが対応にあたっています。

また、事前に予約していただいた団体の来館者には他の体験学習室を使用しての古代体験、展示室や大中遺跡の案内等も行っています。

毎年4月から5月にかけては小学校6年生の歴史学習での来館が特に多くなります。多くの学校が展示案内やまが玉づくりなどの古代体験を希望されますので、春はボランティアのみなさんがフル回転する時期にあたります。

まが玉づくりは、ボランティアの方がとても丁寧に
おしえていただき、みな首からさげて嬉しそうでした。子
ども達から「また来たい」という声が聞こえました。

保護者の方々も興味深く見てらっしゃいました。

(子ども会の代表の方から寄せられた感想の抜粋、原文ママ)

◆ボランティア養成のための研修◆

ボランティアを養成するために、たくさんの講義や講座、古代体験の実習を実施しています。研修を通して、考古学に関する知識や古代体験のスキルを学習します。

もちろん、ボランティアは知識やスキルだけで行えるわけではありません。研修を通じて「おもてなしの心」を身に付けられるよう心がけています。

当館が来館者の方々により評価をいただけるのは、この部分を大切にしているからだと考えているからです。



火おこし体験の指導

考古博物館でのボランティア活動に興味を持たれた方、ボランティア養成の研修に参加して、一緒に活動しませんか？

兵庫県が目指す「参画と協働」を率先して実施し、考古博物館の未来を共に描き実現していきましょう。

※博物館が実施するボランティア養成に関する募集は3月から行います。

お問い合わせは、
学習支援課(TEL.079-437-5564)まで。

イベント・スケジュール

4 月	分類	名 称
7(日)	展覧会	企画展「ひょうごの遺跡vol.5—調査研究速報—」開幕
13(土)	解 説	バックヤード見学ツアー
20(土)	展覧会	特別展「播磨国風土記—神・人・山・海—」開幕
20(土)	講演会	連続講演会「播磨国風土記のひみつ」 是川 長(郷土史研究者)
21(日)	体験講座	水鳥形埴輪miniづくり
27(土)	講演会	連続講演会「播磨国風土記の世界—神話と伝承—」 坂江 渉(神戸大学大学院人文学研究科地域連携センター研究員)
5 月		
3(金)~5(日)	イベント	考古博であそぼう「体感! 播磨国風土記の世界」
4(土)	イベント	第5回 HaRiMa MUSIC CARNIVAL
11(土)	解 説	バックヤード見学ツアー
11(土)	講演会	特別講演会「伊和大神と天日槍」 上田正昭(京都大学名誉教授)
12(日)	イベント	県立東播磨高等学校演劇部による「アユを食べないミカドの話」
19(日)	イベント	再現! たたら製鉄 ※雨天の場合26日(日)
25(土)	講演会	連続講演会「考古学からみた播磨の渡来人」 亀田修一(岡山理科大学教授)
6 月		
1(土)	講演会	連続講演会「播磨国風土記とハリマの国造」 今津勝紀(岡山大学大学院准教授)
1(土)	体験講座	はじめての土器づくり
2(日)	体験講座	竜山石でフクロウをつくろう
8(土)	解 説	バックヤード見学ツアー
8(土)	体験講座	赤米をつくろう~田植え~
9(日)	ツアー	ふるさとウォーク「風土記の里を歩こう~揖保郡~」
15(土)	講演会	連続講演会「播磨国風土記からみた揖保川流域の考古学」 岸本道昭(たつの市教育委員会)
23(日)	展覧会	特別展「播磨国風土記—神・人・山・海—」開幕
23(日)	講演会	『常陸国風土記』の魅力—伝承と歴史的景観— 千葉隆司(かすみがうら市立郷土博物館)
29(土)	体験講座	ループ組紐 5本ループに挑戦!
30(日)	イベント	再現! 古代のまじない—ひとがた流し—
7 月		
6(土)	体験講座	キラリ! ガラス勾玉づくり
6(土)	展覧会	ふるさと発掘展「邪馬台国時代の摂津と播磨」開幕
13(土)	解 説	バックヤード見学ツアー
13(土)	体験講座	鳥形埴輪を製作しよう
13(土)	講演会	兵庫五国の考古学「播磨国の考古学」 福井 優(姫路市埋蔵文化財センター)

■「石棺に入ろう」は毎週土曜日、「古代船に乗ろう」は毎週日曜日に実施。14:00~15:00
■休館日:月曜日(祝日の場合は翌平日)

7 月	分類	名 称
20(土)	展覧会	企画展「はかせからの挑戦状 こうこはく動物園」開幕
20(土)	体験講座	ハニワくんをつくろう
21(日)	イベント	クイズラリー
27(土)	体験講座	踊るハニワをつくろう
27(土)	講演会	兵庫五国の考古学「摂津国の考古学」 竹村忠洋(芦屋市教育委員会)
28(日)	イベント	クイズラリー
28(日)	体験講座	藍染めに挑戦!
31(水)	体験講座	授業で使える! ご飯が炊ける土器をつくろう
8 月		
3(土)	体験講座	古代のまじない「土馬」をつくろう
3(土)	講演会	兵庫五国の考古学「丹波国の考古学」 植木 友(篠山市教育委員会)
4(日)	イベント	クイズラリー
10(土)	体験講座	銅剣形ペーパーウエイトをつくろう
10(土)	解 説	バックヤード見学ツアー
11(日)	イベント	クイズラリー
11(日)	体験講座	古代のかごづくり
16(金)	体験講座	子ども組ひも教室
17(土)	講演会	兵庫五国の考古学「但馬国の考古学」 前岡孝彰(但馬国府・国分寺館)
18(日)	イベント	クイズラリー
22(木)	体験講座	授業で使える! 金印をつくって古代を教えよう!
24(土)	体験講座	チャレンジ! 本格勾玉づくり
25(日)	イベント	クイズラリー
31(土)	体験講座	強力パワー! 子持勾玉づくり(基礎編)
31(土)	講演会	兵庫五国の考古学「淡路国の考古学」 金田匡史(洲本市教育委員会)
9 月		
1(日)	イベント	クイズラリー
1(日)	展覧会	企画展「はかせからの挑戦状 こうこはく動物園」開幕
1(日)	展覧会	ふるさと発掘展「邪馬台国時代の摂津と播磨」開幕
7(土)	体験講座	縄文深鉢形土器をつくろう
7(土)	講演会	考古学研究最前線1「古代の海人—海辺の遺跡の調査から—」 多賀茂治(学芸員)
14(土)	解 説	バックヤード見学ツアー
28(土)	講演会	考古学研究最前線2「古墳時代 準構造船の復元」 中村 弘(学芸員)
28(土)	体験講座	ループ組紐(上級編I)

■体験講座は事前予約が必要な場合があります。TEL079-437-5564(学習支援課)
■イベントについての詳細情報は当館ホームページ・チラシでご確認ください。

兵庫県立考古博物館NEWS vol.11 2013 Spring-Summer

発行年月日 平成25年3月15日

編集・発行 兵庫県立考古博物館
〒675-0142 兵庫県加古郡播磨町大中1-1-1
TEL.079-437-5589
FAX.079-437-5599
http://www.hyogo-koukohaku.jp

- 電車をご利用の方/JR土山駅南口から「であいのみち」を徒歩15分
山陽電車播磨町駅から喜瀬川沿いを徒歩25分
- お車をご利用の方/第2神明・加古川バイパス明石西ICから約3km
- 駐車場/町営大中遺跡公園駐車場・野添であい公園駐車場をご利用
ください(普通車1回200円)



触れる・体感する、考古学のワンダーランド。
兵庫県立考古博物館

